

年次活動報告書発刊に寄せて

熊本大学工学部では、平成12年度（2000年度）から毎年、本学部及び大学院先端科学研究部（工学系）、大学院自然科学教育部（工学系）の年次活動報告書（年報）を刊行して参りました。本年もここに第22号が完成いたしました。本報告書には、令和3年度（2021年度）における教育、国際交流など各分野における所属教員の多彩な活動の実績や、部局運営に関する組織としての取り組みを、時系列的にも比較が可能な形でまとめております。これまで工学系教員の研究業績、科研費等の外部資金獲得状況、共同研究実績、国際交流活動および社会連携活動についても本年次活動報告書に記載させて頂いておりましたが、これらにつきましては、昨年度より科学技術振興機構が運用しておりますデータベース型研究者総覧“researchmap”での公表に統一させて頂きました。学外の方々に組織としての活動状況を的確にご理解いただき、大学運営についてご指導ご助言をいただくための情報公開が本報告書作成の目的ですが、同時に、教職員自らがその活動を客観的に振り返り、次期の活動を企画検討する際の資料として活用することも意図しております。是非とも内容をご一覽いただき、ご活用いただけましたら幸甚に存じます。

熊本大学の第3期中期目標・中期計画期間（平成28～令和3年度）における大学としての目標“～「くまもと」から世界に輝く研究拠点大学～ 「創造する森 挑戦する炎」に沿い、教員組織である大学院先端科学研究部ならびに教育組織である工学部及び大学院自然科学教育部では、教育研究、社会貢献における活動を展開してまいりましたが、令和3年度は第3期中期目標・中期計画の最終年度となりました。課題は残されていますが、概ね第3期の目標・計画は達成できたものと評価しています。本年度より、前原田学長から小川新学長にバトンが渡され、大学新執行部による第4期中期目標・中期計画が決定されるとともに、熊本大学の次の10年を見据えた「熊本大学イニシアティブ2030」地域と世界に開かれ、共創を通じて社会に貢献する教育研究拠点大学をめざして“ ”が策定されました。具体的な内容については、末尾のURLをご覧ください。工学部においても、教育・研究・社会貢献等の機能強化を図り、地域・社会・世界に貢献する熊本大学工学部を目指し、熊本大学イニシアティブとの整合性をとりながら工学部アクションプランを策定しました。令和4年度からの第4期中期目標・中期計画期間はこれにそって研究・教育・社会貢献等のさまざまな取り組みを行っていくこととなります。

教育面では、新型コロナウイルス感染症パンデミックにより、令和2年度よりオンライン授業が続いていましたが、10月に入り全国的に新規感染者数が急激な減少に転じ、さらに、本学で実施したワクチン接種も10月半ばに終了したことから、工学部では、第3ターム（第3学期）の途中から学部講義の全てを、原則、対面で授業を実施しました。キャンパスに学生諸君が戻り、賑やかなキャンパスとなりつつあります。昨年度の入学以来、オンライン授業が続きほとんど大学に登校する機会のなかった2年次学生からも、やっと大学生になったと実感できますとの声が聞こえてきます。部活動やサークル活動も許可制で認められるようになり、徐々に大学本来の姿に戻りつつあります。また、大学院自然科学教育部においては、若手博士研究者の育成を目的として博士後期課程学生への支援を行う文部科学省の「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」に令和2年度に採択されましたが、本年度は、科学技術振興機構（JST）の「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に応募・採択されました。これらのプログラムを通して、博士後期課程学生への経済的支援を行うとともに、種々のキャリア開発・育成プログラムを実施しています。我が国の将来を担う人材を本学工学系から輩出できるよう、多くの優秀な学生の皆さんが博士後期課程へ進学してくれることを期待しているところです。

ところで、令和3年11月に世界的な半導体企業であるTSMC（台湾積体電路製造）が熊本県菊陽町に工場を新設することが発表されました。既に、半導体関連企業の熊本県への集積が加速しており、半導体産業を担う高度技術者の不足が深刻化してきています。経済産業省や文部科学省からの半導体人材育成に対する本学への期待も高く、大学院先端科学研究部では、先端科学研究部附属「半導体研究教育センター」を令和4年4月に設置することを目指して準備を行ってきました。本センターでは関連の研究者を集結して、産学官一体による半導体研究を推進し、我が国における半導体研究の中核的拠点となることを目指しています。令和3年度補正予算「地域の中核大学の産学融合拠点の整備」にも採択され、同センターの研究開発拠点となる「半

導体共創研究バブ」を整備しているところです。一方、半導体人材育成に関しても社会の要請を踏まえた新たな半導体人材育成カリキュラムを構築しているところです。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックをきっかけに、知識集約型社会への変革がより一層加速される中、熊本大学工学部においても、教育力や研究力より一層の磨きをかけ、世界水準の教育と国際的に卓越した研究の実践に努力したいと思っております。今後とも、熊本大学工学部の活動に対し、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年3月

熊本大学

工学部長・大学院自然科学教育部長

連川 貞弘

researchmap

<https://researchmap.jp/>

熊本大学イニシアティブ 2030

<https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/gaiyo/initiative2030>